

海の中道海浜公園整備・管理運営プログラム



平成29年3月28日

国土交通省 九州地方整備局

— 目次 —

1. 全体計画及び開園状況等		1
(1) 全体計画		1
(2) 供用の経緯		3
(3) 主な供用施設		4
(4) 利用の状況		5
(5) 公園のストック効果		5
2. 平成32年度までの整備及び管理運営の方針等		7
(1) 平成32年度までの整備・管理運営の重点事項・・		7
(2) 整備及び管理運営の方針		8
(3) 事業効果		14

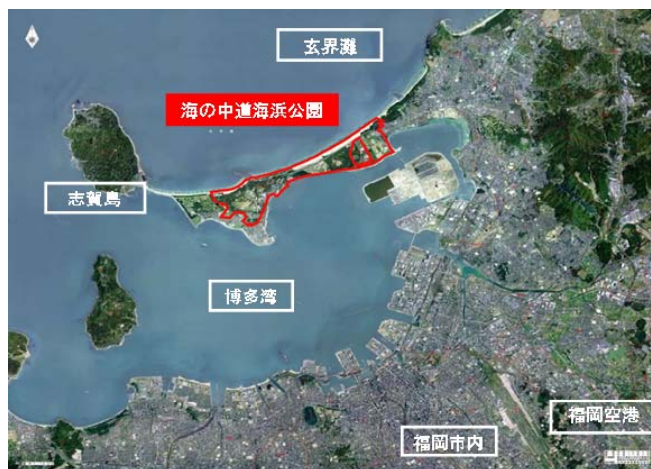
1. 全体計画及び開園状況等

(1) 全体計画

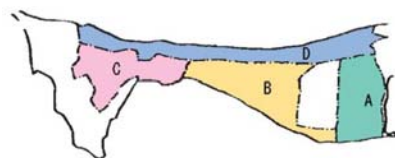
本公園は、玄界灘と博多湾を隔てて志賀島へ伸びる半島「海の中道」中央部(福岡県福岡市東区西戸崎)に、幅0.5～1km、長さ約6kmの区間にわたって位置するイ号国営公園(計画面積約539ha)の都市公園です。

戦後、米軍基地として使用されていた跡地を活用した地形は平坦で、海浜地特有のクロマツ林を主体とした海岸線を有し、玄界灘側は、自然海岸による海岸植物が分布しています。

北部九州における広域的レクリエーション利用、「白砂青松」の良好な自然環境の保全を目的とし、我が国5番目の国営公園として、昭和51年に事業着手しました。特色ある地形と、歴史的、文化的背景に留意し、自然環境を活かした自然学習の場の提供や公園内の芝生、花、池などの魅力的なランドスケープを形成し、魅力あふれる空間を創出することで、レクリエーション需要の増大と多様化に対応しうる国営公園をめざし、誰もが安全・安心・快適に利用していただけるよう整備・管理を進めています。



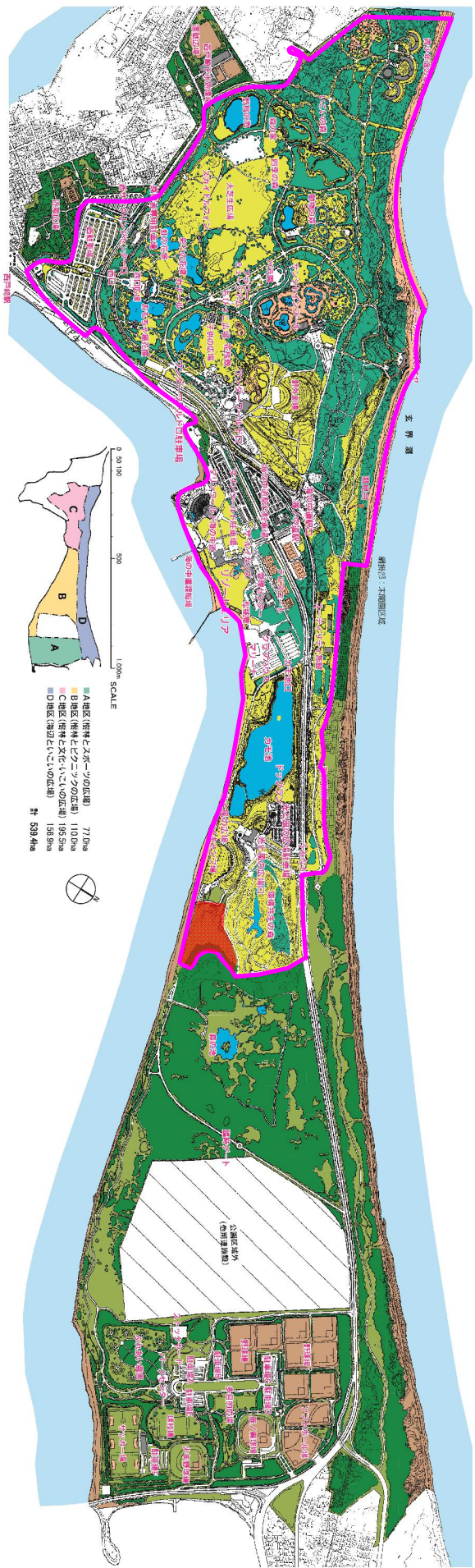
●公園のゾーニング



- A地区(樹木とスポーツの広場)
- B地区(樹木とピクニックの広場)
- C地区(樹木と文化・いこいの広場)
- D地区(海辺といこいの広場)

本公園は、「緑の樹林」「碧い海」「輝く太陽」を基本に、地理的・植生的特性、計画理念、建設手順及び管理運営手法等を勘案して全体的調和を図りながら、全体を4つの地区に分けて、自然条件を生かすテーマを設定し、テーマに応じた計画をたてながら、統一体として有機的に機能させることを目的としています。

海の中道海浜公園基本設計図



平成29年4月1日現在の供用区域

平成29年3月25日供用

(2)供用の経緯

海の中道海浜公園の設置は、昭和 47 年に米軍博多基地（キャンプ博多）が返還されたことに端を発しています。基地跡地が良好な自然環境を有していたこと、また、北部九州を中心とする広域圏域のレクリエーション需要の増大に対応する施設が必要とされていたことから、大規模都市公園として昭和 50 年度に都市計画決定されました。

その後、昭和 51 年度より整備を進め、昭和 56 年 10 月に「西口広場」「大芝生広場」「動物の森」を含む約 59ha を開園しています。その後も整備が完了した区域より順次開園しており、平成 28 年度末現在では、約 298ha（計画面積の約 55%）が開園しています。

年度	項目	供用面積
昭和47年度	米軍博多基地返還（515.2ha）	
昭和50年度	都市計画決定	
昭和51年度	事業着手	
昭和56年度	C地区西口広場、大芝生広場、動物の森供用開始	59ha
昭和58年度	C地区サンシャインプール、野鳥の池供用開始	73ha
昭和59～61年度	C地区子供の広場供用開始	102ha
昭和62年度	C地区宿泊研修施設供用開始	116ha
平成元・7年度	D地区青少年海の家、C地区マリンワールド（海洋生態科学館）供用開始	189ha
平成11年度	C地区いこいの森（森の家）供用開始	206ha
平成14年度	B地区光と風の広場（デイキャンプ場）供用開始	230ha
平成17年度	D地区潮見台エリア供用開始	249ha
平成21年度	B地区環境共生の森（みらいの森）供用開始	265ha
平成22年度	D地区玄界灘海浜部中央部及び西部供用開始	292ha
平成25年度	C地区中央駐車場供用開始	294ha
平成28年度	B地区博多湾パノラマ広場供用開始	298ha
供用面積 計		298ha



動物の森



森の家



B地区博多湾パノラマ広場供用開始



大芝生広場（花の丘）

(3)主な供用施設

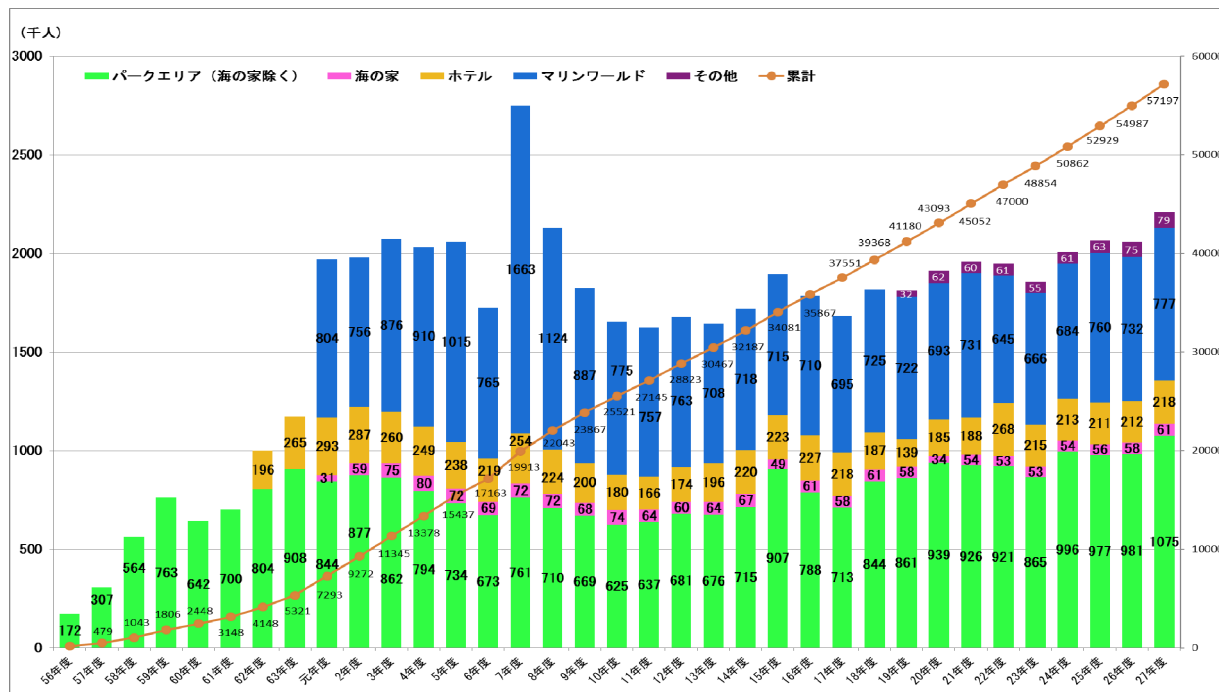
昭和 56 年に開園し、開園エリアを順次拡大しながら多種多様な利用者ニーズに応えられるように現在も施設を整備しています。

平成 28 年度末には、新たにB地区博多湾パノラマ広場(4.2ha)を供用開始し、利用者満足度のさらなる向上につながる公園運営を目指します。

C地区(パーク)		
動物の森 動物と直接ふれあうことの出来る動物園。 	大芝生広場 広大な芝生の広場は花修景や各種スポーツ大会など、様々なレクリエーションが楽しめる空間。 	子供の広場 子供たちのための遊具などを備えた遊べる空間。 
サンシャインプール 6つの異なるプールを備える西日本最大級のレジャープール。 	カナール・フラワーミュージアム 水と緑がおりなす優雅な空間・屋根のない美術館をイメージした花の空間。 	
C地区(リゾート)		B地区
マリンワールド海の中道 イルカやアシカのショー、巨大なシロワニが泳ぐパノラマ大水槽など見どころがいっぱいの海洋生態科学館。平成 28 年度からのPFI 事業実施に向け、平成 27 年度に事業契約を行った。 		博多湾パノラマ広場 3.5ha の芝生広場と博多湾を挟んで福岡市街地を一望でき、様々なイベントに活用できる芝生広場 (H29.3 供用) 
B地区	D地区	
光と風の広場 デイキャンプ場 バーベキューや自然観察が楽しめる施設。 	青少年海の家 雄大な玄界灘に面し、研修・宿泊棟やキャンプ場などを有する野外活動拠点施設。 	玄界灘海浜部 海浜部の絶景のサイクリングコース 

(4)利用の状況

昭和 56 年に開園以降、施設の充実に伴って入園者数は年々増加し、マリンワールドが完成した平成 7 年度に、最多となる 275 万人の入園を記録しました。近年は、年間 200 万人程度で推移しており、平成 27 年度には、歴代 2 番目となる約 221 万人の方々に利用され、累計では約 5,720 万人となりました。



(5)公園のストック効果

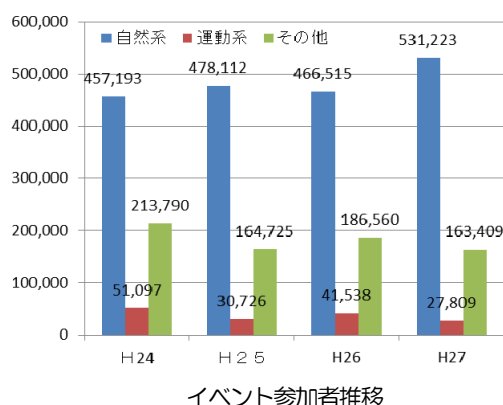
1) 健康レクリエーション空間提供効果

・子育て、教育効果

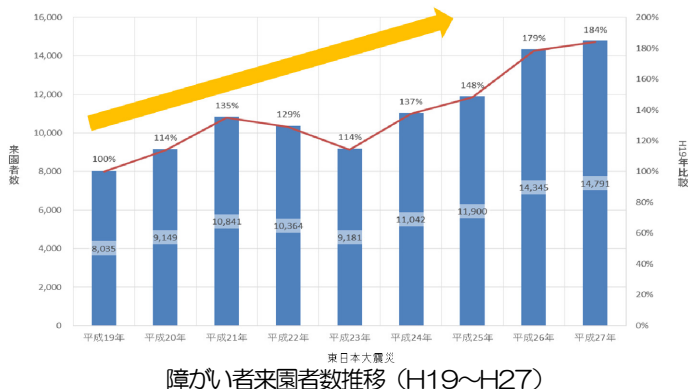
多種多様なイベントを年間を通じて約 200 イベント実施し、参加者も約 70 万人前後で推移している状況です。

屋外レクリエーションは、自然体験型のイベント参加者が増加傾向にあります。そのほかにもスポーツイベントやコンサートなどのイベントも実施されており、余暇活動の場として子供から大人まで幅広い世代に利用されています。

また、公園を訪れるすべての人が利用しやすいように公園全体のユニバーサルデザインを平成 20 年から進めており、利用制限の情報発信や施設整備（トイレ、車いす対応、授乳室等）を計画的に実施し、すべての人が自然とふれあい、心身のリフレッシュの場を提供しています。その成果の一つとして障がい者の来園者数が約 1.8 倍になっています。



平成19年 8,035人 ➡ 平成27年 14,791人（1.84倍）





海辺でヨガ



スポーツイベント（タグラグビー）



自然観察会



コンサート

2) 景観形成効果

公園の北側は、玄海国定公園の特別地域内に面しており、『白砂青松』の素晴らしい自然景観を形成しています。また、博多湾と玄界灘を遮り志賀島と陸地で繋ぐ陸繋砂洲である海の中道は、福岡都市圏の特徴的な景観(表紙参照)の一つです。



玄界灘風景



陸繋砂洲

3) 観光振興効果

平成 27 年度より海の中道海浜公園内にある水族館が PFI 事業として新たな事業者に決定し、平成 28 年に閉館し、全館リニューアルを実施しています。平成 29 年には、リニューアルオープンを行う予定で、新たな魅力の発信となり、地域の観光振興に寄与することが期待されます。



新ロゴマーク



水槽イメージ



エントランスイメージ

リニューアルイメージ

4) 地域経済活性化効果

5月の大型連休中に大芝生広場にて開催されるご当地グルメ、スイーツなどのキッチンカーが約30台集結する大型グルメイベントや九州最大級の大規模音楽イベント（夏フェス）やアウトドアイベント、冬のクリスマスキャンドルナイトなど様々なイベントを実施し、地域の観光振興に寄与しています。

その他にもプチボランティアの募集を行いボランティア参加のハードルを下げる取り組みを行い地域住民の方々の交流の場の提供を行っています。

また、利用者の声や有識者の意見を参考に利用者目線を念頭において、整備及び管理運営のハード・ソフトの対策を実施してきました。その結果、近年のイベント数は増加傾向にあり、地域の生活の質の向上に寄与しています。今後もさらなる公園の質の向上を目指すとともに、多くの方に公園を楽しんで頂くためにより柔軟な対応を行い、地域のニーズを踏まえた多種多様なハード・ソフトの対策を実施していきます。



グルメイベント



大規模音楽イベント（夏フェス）



プチボランティア（花壇管理）



クリスマスキャンドル

2. 平成32年度までの整備及び管理運営の方針等

（1）平成32年度までの整備・管理運営の重点事項

5箇年基本テーマ：「みんなで“海の中道”の宝探し」

本公園がある福岡都市圏の人口は約240万人であり、九州・西日本の拠点として、各種企業が集積しており、今後も人口増加が見込まれている地域です。また、近年は、クルーズ船の寄港に伴いアジア諸地域からの来訪者が増加しており、九州新幹線の開通などの広域交通ネットワークの充実も相まって、人・物・情報の交流の機会が増加することが期待されています。

今後は、玄界灘と博多湾に挟まれた広大で豊かな自然環境を活かし、インバウンド、高齢者、障がい者などの多様な利用者が海の中道海浜公園の魅力を十分に感じ取り、利用できる公園を目指すため、多様な主体との連携のもと、新たな『海の中道』の魅力を発信及びその魅力の活用や提供を通じて、「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会」最終とりまとめ(H28.5)に基づき、公園の新たな魅力の掘り起こしを積極的に行い、北部九州の広域的レクリエーション需要に対応することが求められています。そのため、平成32年度までの整備・管理運営は、次の4つの重点事項に沿って、実施していきます。

【平成32年度までの整備・管理運営重点事項】

1. 「白砂青松」の松林育成保全 【ストック効果向上】

ここはかつて人も住めず、植物も生えない不毛の砂地でしたが、江戸時代（1660年代）から人の手でクロマツを植えてきたことで、今のような環境がつけられました。「海の中道」の環境や地域住民の生活を守るためにこのクロマツ林を後世につないでいくことが非常に重要であるため、今後も松林育成保全に取り組みます。

2. 公園環境向上の取り組み～「体験・経験の場」の確保～【ストック効果向上】

豊かな自然環境を活かし、環境教育の場としての機能を強化することにより、北部九州地域における環境学習フィールドの核となるよう公園整備を推進します。また、地域住民等との協働による新たな森づくりや、松林再生を推進する等、広大で豊かな自然環境を活かした「体験・経験」の拠点となる公園となるよう取り組みます。

また、フラワーピクニックなどの大型イベントを充実させ、公園の魅力向上を図るとともに、積極的に情報発信を行うなど、公園の利用促進に取り組みます。

3. 新たな「利活用プログラム」の推進【民との連携加速・柔軟活用】

約539haという広大な敷地を生かし、利用者ニーズを踏まえた新たな利活用プログラムの検討や多様な施設・主体と連携を図り、季節に応じた多種・多様なスポーツイベント等を実施することにより、広域レクリエーション需要に対応する魅力ある公園となるよう取り組みます。

4. 来園者の安全・安心の確保【民との連携加速・柔軟活用】

市民団体等と連携し、インバウンドや利用者ニーズの多様性に配慮しつつ、ユニバーサルデザイン※を念頭に置いて、すべての人々が安全・安心に楽しむことができる公園となるよう公園整備・管理に取り組みます。

※ 本整備プログラムでは、ユニバーサルデザインを年齢や障がいの有無にかかわらず全ての人が利用しやすい物や施設の設計の考え方という意味で使用しており、バリアフリーもこの中に含まれます。

(2)整備及び管理運営の方針

Ⅰ. 「白砂青松」の松林育成保全【ストック効果向上】

海の中道海浜公園は、国内最大級の「砂の道」の上にあり、原風景をおりなす「白砂青松」の景観を守るため、これまで松枯れ対策や松林再生を推進してきました。今後も松林を後世につなぎ、「海の中道」の環境や地域住民の生活を守るため、平成32年度までの事業内容は、樹幹注入や薬剤散布、伐倒駆除といった松枯れ対策を引き続き実施します。また、海岸林に期待される防風、防潮、防砂の機能を果たすことが可能ながっ

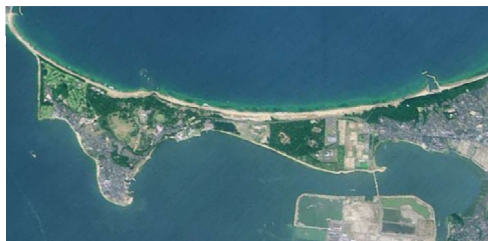
しりとした形質を有し且つ、下の方の枝にも多くの葉をつけたクロマツを育てるため適正な密度管理（本数調整）を行い、地域の資源を活かしたここにしかない美しく風格のある松林風景の創出を目指します。なお、これらの取り組みにあたっては、引き続き市民や関係機関と連携して海浜部のクロマツ林保全・育成等の取り組みを推進していきます。

海の中道海浜公園の海岸林（クロマツ林）

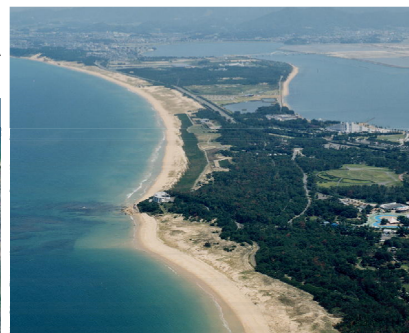
海の中道は、玄界灘と博多湾の間にあり、志賀島へと細長く伸びています。ここは、古代に志賀島や大岳などの島々が、海流の堆積作用によってつながり、陸繋砂州（陸地と島をつなぐ砂州）となりました。

ここはかつて人も住めず、植物も生えない不毛の砂地でしたが、江戸時代（1660年代）から人の手でクロマツを植えてきたことで、今のような環境がつけられました。

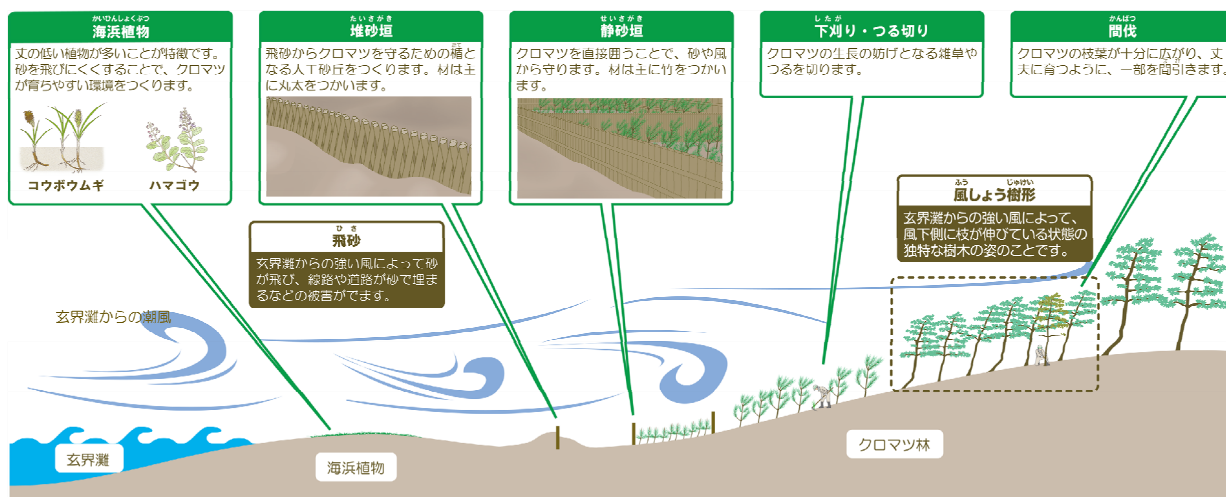
このクロマツ林を後世につないでいくことが、海の中道の環境を維持していくためには重要です。



▲公園区域と海の中道に広がるクロマツ林



▲公園内のクロマツ林



▲海岸林（クロマツ林）の育成イメージ



▲樹幹注入の様子



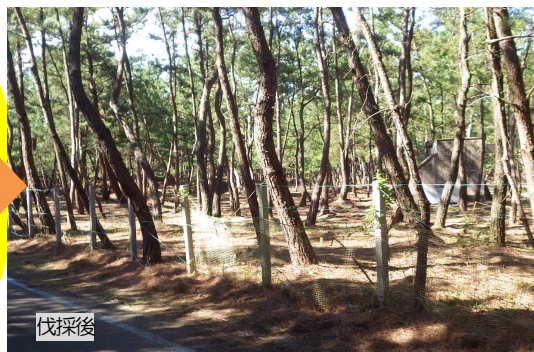
▲機械による薬剤散布



▲人力による薬剤散布
（機械の入れないところ）



伐採前



伐採後

Ⅱ. 公園環境向上の取り組み～「体験・経験の場」の確保～【ストック効果向上】

当公園では、平成10年に策定した「環境共生計画」に基づき、白砂青松の保全・創出、「環境共生の森」の整備、植物廃材の堆肥化や環境学習の実施等、本公園が環境教育の取り組み拠点となるように努めてきました。平成32年度までの事業内容は、「環境共生の森（みらいの森）」、B地区「森の池」、D地区「玄界灘海浜部」が一体となって美しい風景を形成し、北部九州地域における環境学習フィールドの核となる整備に取り組めます。

また、NPO、地域住民及び行政が一体となり、活動できる仕組みづくりを一層進め、地球温暖化防止及び自然環境や生態系の保全・創出技術の普及啓発に努めます。また、フラワーピクニックなどの大規模な花風景や自然環境を生かしたイベントを充実させ、公園の魅力向上を図るとともに、積極的に情報発信を行うなど公園の利用促進に取り組めます。

B地区「森の池」整備

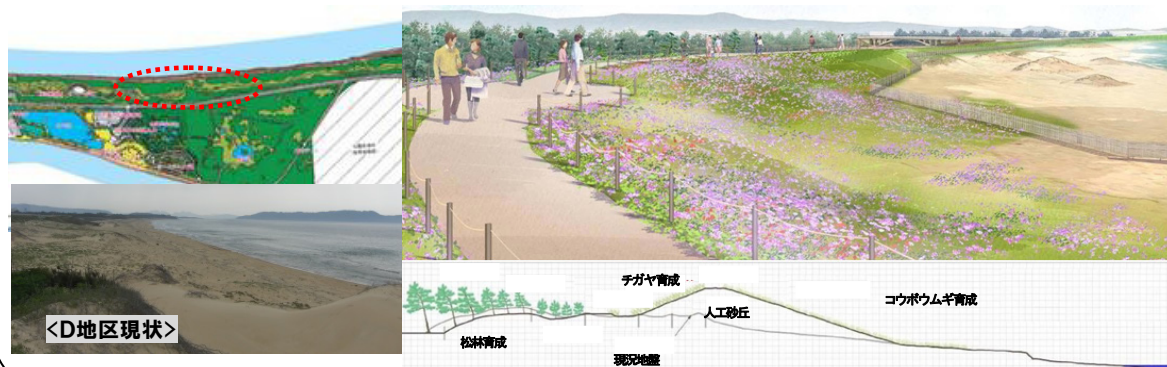
クロマツ林及び地下水位の上昇によって不定期に現れる「幻の池」を活かし、自然散策や自然観察を楽しむことができる空間をつくるため、園路整備や休憩施設の整備を行い、本整備期間中の供用を目指します。



D地区玄界灘整備（I期）

玄界灘海浜部における松林の形成による公園全体の防潮林の機能の確保は、今後の公園機能を維持する上で必要不可欠な整備です。また、特殊な自然海浜植生が形成され環境学習の場としての活用が望めます。以上より、今後の公園機能維持及び環境学習の場として、モニタリング調査を行いながら、計画的に松林再生のための整備を行います。

<D地区イメージパース>





<海の家での親子キャンプ>



<どんぐり苗作り体験>

Ⅲ. 新たな「利活用プログラム」の推進【民との連携加速・柔軟活用】

当公園では、広大で豊かな自然環境を活かしつつ、オールシーズン利用可能な施設計画のもと、多様な事業主体等と連携を図りながら施設の整備並びに様々な行催事を実施し、観光振興や地域の賑わいの拠点として、地域の魅力向上につながる取り組みを進めてきました。平成 32 年度までの事業内容は、下記の取り組みを中心に多様な事業主体との連携をより一層進め、本公園のストック効果を最大限活用できるように努めます。

●PPP/PFI の活用

PFI 事業により、民間の資金、経営能力、技術的能力を活用した、水族館及び宿泊施設の長期的な管理運用を推進します。

水族館については、『マリンワールドPFI(株)』により平成 28 年 4 月から 20 年間にわたる管理運営事業が開始されており、平成 29 年 4 月のリニューアルオープンに向けて、展示テーマを「対馬暖流」から「九州の海」に変更し、「いつも新しい私になれる水族館」をコンセプトに事業者において改修を行い、水族館の魅力向上に努めます。

宿泊施設については、PFI 事業として管理運営を行う事業者を公募し、平成 30 年 4 月から 20 年間にわたる管理運営事業開始に向け、手続きを進めます。事業開始後は、新たな事業者と一体となって宿泊施設の魅力向上に努めます。

上記以外の公園施設についても、民間活力を活用した整備・管理運営手法を検討します。

●都市公園の多機能性の発揮と利用促進

都市公園は、地域住民のコミュニティ形成拠点としてのポテンシャルも高く、ヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の確保等にも大きな効果を発揮することが期待でき、また、多種多様な自然体験や参加型のイベント等の積



<水族館 PFI>



<宿泊施設 PFI>



<地元中学生職場体験>

極的な実施を通して、自然環境保全の必要性を学ぶ場や地域づくりを支える人材育成の場としての活用も期待できるため、画一的な整備・管理運営に陥らないように各エリアに応じた整備・管理運営を推進し、NPO、地域住民及び行政が一体となり公園の多機能性を一層発揮できるような取り組みを推進します。（多機能性の発揮）

例えば、移動式アトラクションの設置や難病への理解を深める社会啓発活動等、ニーズに応じた多様な利用方法を可能とする取り組みを推進します。

また、公園自体のポテンシャルを発揮するためには、公園運営に関わる人がその特性や制度等を十分に理解することが不可欠であり、公園管理者やボランティア参加者が、公園管理の視野を超えた広い視野（観光振興、各種スポーツ等）を持ちながら様々な観点から関連する分野を横断的に連携できるように取り組みを推進します。（人材育成）

例えば、植樹や植栽管理のボランティアにおいては、NPO、地域住民との連携や家族で楽しめるファミリーボランティア、企業ボランティア等の取り組みを推進していきます。

利用推進を図るため、これまで春季の「フラワーピクニック」、秋季の「うみなか☆はなまつり」等季節に応じた花修景を核とした大規模なイベントやスポーツ体験、野外コンサートなど多くのイベントを実施してきました。

平成32年度までの事業内容は、引き続き公園の特色を活かしたイベントを開催するとともに、人と動物のふれあい及び観察ができる「動物の森」の資源を活かした展示・イベントを行うなど、多様な利用プログラムを実施すること等により多くの方々に学び、楽しみ、満足して頂けるよう、工夫しながら季節に応じたイベントを開催します。（広域レクリエーション需要への対応）

<アウトドアイベント>



例えば、志賀島などの周辺地域と連携して、地域の歴史的・文化的資源も活かしながら効果的なイベントを実施するとともに、毎年恒例となっているフラワーピクニック、クリスマスキャンドルナイト等の大規模イベントや環境共生の森での植樹・間伐といった公園づくりなどのイベントに関する企画・運営に対して市民団体等が参加しやすい仕組みづくりを推進し、公園に対する様々な期待や要望にきめ細やかに対応できるようにし、公園の魅力や価値の向上に努めます。

IV. 来園者の安全・安心の確保【民との連携加速・柔軟活用】

●ユニバーサルデザイン

当公園では、平成 19 年度から有識者・学識者からなるユニバーサルデザイン検討委員会を設置し、基本理念等を決定し、平成 20 年度から平成 24 年度まで 5 箇年アクションプログラムを策定・実行し、平成 25 年度からはスパイラルアップとして PDCA サイクルに基づき、重点項目を選定してユニバーサルデザインの取り組みを計画的に進めてきました。特に、トイレや休憩施設など特に早期対応が必要な施設から順次整備を進めてきました。



今後、平成 32 年度までは、特に利用者の立場に重点を置いたスパイラルアップを行い公園運営に携わっているすべての関係機関と協力して公園全体のユニバーサルデザインを計画的に進めます。

また、九州地方では、外国人観光客、特にアジア諸国からの観光客が年々増加する傾向にあることを踏まえ、外国人向け広報の充実を図るとともに、外国人観光客が十分楽しめるようサービスの向上を図る観点からもインバウンド対応への取り組みを行うなど、NPO、地域住民及び行政が一体となり公園の多機能性を一層発揮できるような取り組みを推進します。



●来園者の安全・安心の確保

開園後、35 年が過ぎ、施設の老朽化が進行していく中で、利用者のニーズを踏まえて既存施設の機能保全・向上やライフサイクルコストの低減に配慮した長寿命化計画に基づいた施設更新を推進します。



主桁部はく離発生状況



プロムナード橋

また、本公園が、広域避難地であることから、安全性の確保が急がれる施設については、優先的に改修・修繕・整備を進めるとともに、災害発生時に、避難地としての機能を発揮できるよう関係する地元自治体との連携を図ります。

また、来園者の避難誘導や、園内放送などソフト面での体制整備を進めます。

さらに、高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫等動物に関わる感染症について、「動物の森」において発生しないように常日頃から万全な自主防疫に努めるとともに、周辺地域の発生・拡大等に備え、適切かつ迅速な対応がとれるよう体制整備を進めます。

(3)事業効果

○「白砂青松」の松林育成保全 【ストック効果向上】

松林の密度を適正に保ち健全な松林を保全することが、特徴的な景観保全にも繋がり、健康・レクリエーション空間の提供、景観形成、地域コミュニティ形成、観光振興等の複合的な幅広い効果が期待でき、公園全体のストック効果向上につながることを期待できます。

海岸林の役割

海岸林は、海からの潮風や津波・高波、飛砂などから、人々の生活を守るためにつくられた森林です。潮風や飛砂に強く、やせ地の砂浜でも育つことができる植物は、クロマツや海浜植物などに限られます。

飛砂防止や防風・潮風害防止の役割

海岸林には、海からの風によって吹き上げられた飛砂を枝や葉により減衰させ、砂の移動を弱める働きがあります。また、飛砂の発生源である砂地を樹木で覆うことで、飛砂の発生を抑えることが出来ます。

他にも、海からの風当たりを和らげる防風機能や海風に含まれる塩分がもたらす塩害を軽減させます。

▶ ブラシのような枝葉で
飛砂や塩分を捕捉

▼ クロマツ林により風が弱まる範囲



風が弱まる範囲（樹高の20～30倍）

多様な生き物を育む環境の形成

海岸林が育つと、さまざまな動植物が生活できる環境となることから、生物多様性にとっても重要な役割をもっています。

景観向上の役割

海岸林は、虹の松原（佐賀県）・天橋立（京都府）・気比の松原（福井県）等が国の特別名勝として指定されているなど、その景観が人々に楽しまれています。

環境教育の場の提供

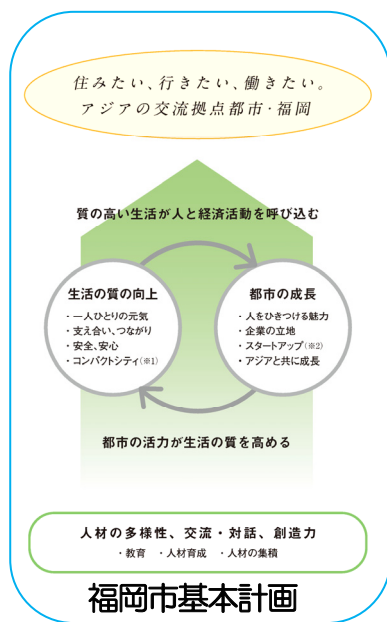
海岸林は、山間部の森林よりも生活の場に近いことから、環境学習の場として、利活用されています。



○公園環境向上の取り組み～「体験・経験の場」の確保～【ストック効果向上】

B地区「森の池」の開園により、隣接する「環境共生の森（みらいの森）」、「D地区玄界灘海浜部」が一体となった自然環境の中で、継続的かつ充実した環境学習の実施を通じ、緑化の普及啓発、地球温暖化の防止、循環型社会の構築に向けた市民の意識の向上が図られます。また、他の公園管理者に対し、質の高い環境学習を行いつつ市民参加型で公園づくりを行う際の参考となるノウハウ等を提供できます。

さらに、上記の取り組みの推進により福岡市策定の「福岡市基本構想（平成24年12月）」、「第9次福岡市基本計画（平成24年12月）」に掲げられる目指すべき都市像や都市経営の基本戦略の実現に寄与することができます。



○新たな「利活用プログラム」の推進【民との連携加速・柔軟活用】

市民団体や企業等との連携及び公園の柔軟な活用により、約 539ha という広大なエリアと様々な資源を有する本公園の多機能性の発揮が可能となり、本公園の有効活用と公園利用者の満足度の向上が図られます。

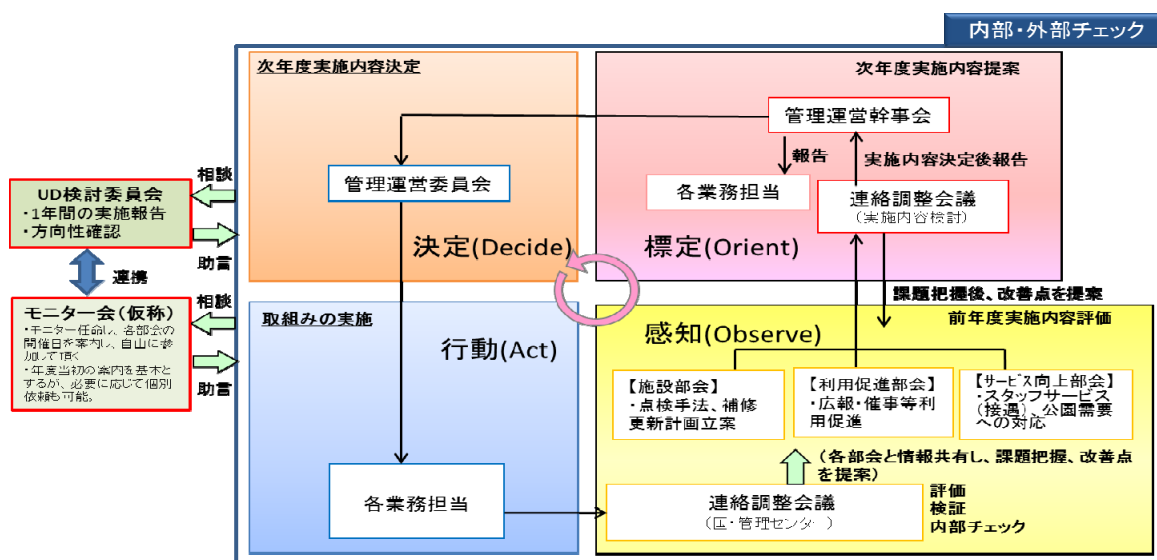
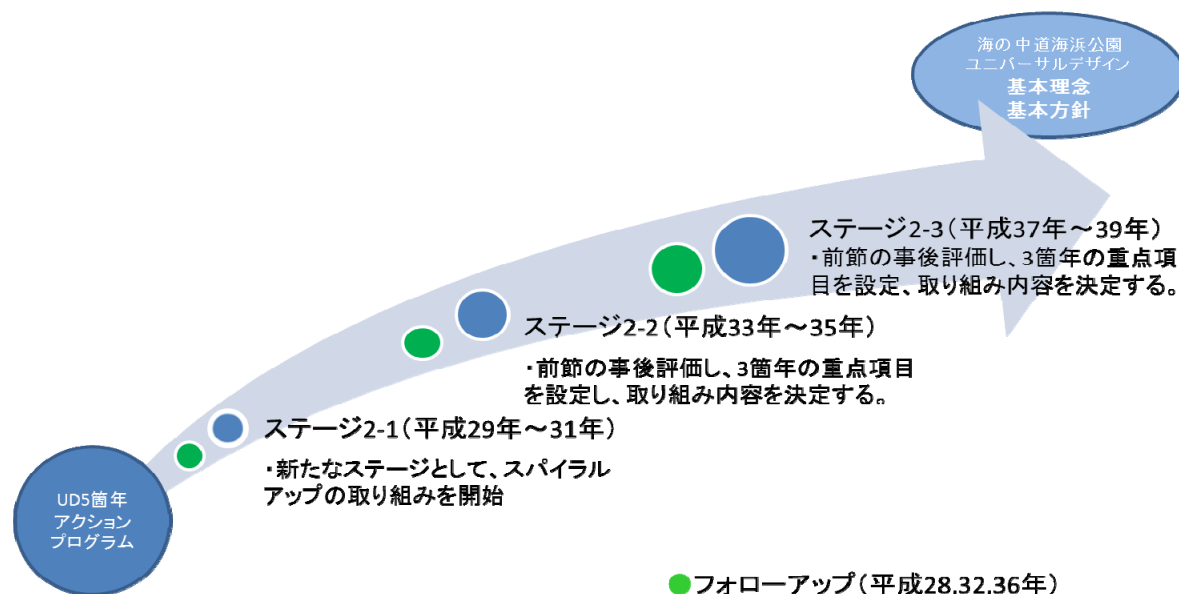
また、公園周辺部において活動している NPO 団体等との連携による様々なイベントを実施するとともに、公園内の花壇の整備や維持管理への市民団体等の参加を進めることにより、公園に対する要望にきめ細やかに対応し、公園の魅力や価値の向上につなげるほか、地域との連携と市民の参画を通じて地域づくりの人材育成、地域の活性化への貢献につながることを期待されます。

さらに、フラワーピクニック等の恒例化した人気イベントなどにおいて、これらの取り組みを知ってもらうことを通して、本公園の魅力や価値の発信にもつながり、一層の利用促進が期待されます。

○来園者の安全・安心の確保【民との連携加速・柔軟活用】

老朽化した園内施設の更新や耐震化などを進めることにより、地震等の災害発生時に来園者及び周辺住民の方の安全・安心の確保が図られます。また、すべての人が安全・安心に楽しく利用できる公園を引き続き目指すため、有識者との検討会を行いユニバーサルデザインを計画的に進めることにより、ハード面、ソフト面においても障がい者やインバウンドも含めた利用者ニーズの多様性に対応し、公園の満足度向上が図られます。

また、公園管理においても、安全・安心に公園を利用して頂くため来園者に配慮した維持管理計画を策定することで、公園の質の向上が期待されます。



ユニバーサルデザイン仕組み(OODA)

なお、本プログラムは、公園整備・管理を巡る社会情勢の変化、事業の進捗状況等を踏まえ、適宜見直しを行っていきます。